

日本最大級のラベンダー園

「千年の苑」プレオープン

町の新たなシンボルである「千年の苑」のラベンダー園が6月16日（7月1日に一般開放（プレオープン））しました。

「千年の苑（ラベンダー園）」事業は平成28年4月に発足した「千年の苑事業推進協議会」が担っており、（農）らんさん宮農、農産物生産組合、商工会、観光協会、鎌形地区、南部土地改良区、社会福祉施設を構成員として進めています。

国の交付金を活用した事業で、平成28年度から植え付けを開始し、本年6月時点で約5.7ヘクタール、約35,000本のラベンダー園となりました。今秋の植え付けを終えると約8ヘクタール・約50,000本となります。植え付け面積では日本最大級となり、来年6月に本格オープンを迎えます。

今年は、3月の気温が高かったことから昨年と比べて10日ほど開花（満開は6月20日）は早まりましたが、6月16日から7月1日の一般開放期間（6日間）には、約77,000人の来園者があり、約9,000人が摘み取りを楽しみました。

町では、都幾川堤の桜が花期を終え、新緑のまぶしさを彩るころにふさわしいものとして、町のシンボルであるオオムラサキのイメージカラーと重なるラベンダーを選定しました。更に、ラベンダーは鑑賞だけでなくドライフラワー・ポプリ・オイルなど付加価値（売れる）の付く作物であることも選定理由のひとつです。「ラベンダーで稼ぐ！」を合言葉に官民一丸となって努力してまいります。

自然と調和し、歴史漂うこころ風山の地にラベンダーの壮大な空間を作ることにより、町内外から数多くの人々の来訪をいただき、まちの活性化と未来に誇れるまちづくりと町民の活力を結集した地域振興のシンボル拠点となることを目指します。

「千年の苑」の由来

鎌倉武士の鑑とまで讃えられた島山重忠公の居住していた菅谷館から見下ろせる場所で木曾義仲公生誕の地の近くでもあります。

剛勇かつ公正で優しい人柄の島山重忠公、冷酷な面をもつ源氏一族の中で純朴で素直な心の木曾義仲公は、乱世を望まず穏やかな世の実現を真に願っていたに違いないと見受けられます。

当時から約千年の時を経た今、こつした想いを込めた美しい花園を創ることから「千年の苑」という名を冠することにしました。